

ぬれてしまった本 (3年)

—エイブラハム＝リンカーン

板書の工夫

あらかじめ、授業の中で重要な場面の挿絵や言葉を準備しておく。子どもたちは、「貼る」という行為だけでも注目する。特に挿絵を提示すると、それだけでその場面を想起できる。

「めあて」「振り返り」など、毎授業で使う学習用語は、あらかじめ記号(アイコン)として提示できるものを用意するとよい。

何の発問に対するまとめなのかがわかるよう、言葉で明示したり、囲んで区別したりする。

「振り返り」のアイコン。



教材名の提示。

大事な場面は、目を引くよう、チョークの色や囲みの形を変えたり、アイコンを書いたりして工夫する。

子供たちが特に大切だと意識した言葉は、傍線を引くなどして目立つようにする。

板書の流れ

- 1 「めあて」は初めに提示する。教科書のとびき「考えよう」を参考に、クラスの子どもたちに合った言葉にして示す。導入で「めあて」を活用し、「反省しているとき、みんなはどんなことを思っているかな」という投げかけをして、その反応を板書しておく。【3～4分】
- 2 教科書を範読して、教材の道徳的な問題場面を確認する。子どもたちの発言の中の言葉を、子どもの思いをゆがめないよう注意しながら、キーワードとして抜き出す。教材の中の重要な場面や、子どもたちが大切なことに気づいた場面は目立つようにし、全員で共有できるようにする。【10分】
- 3 授業では、物語の展開をなぞりながら、リンカーンが反省したとき、どう考え、どう行動したのか、そのときの心について話し合わせる。「謝る」「働いて返す」という行動に至った、リンカーンの心の動きを、子どもたち自身の言葉で語り合わせる。【19分】
- 4 本時の振り返り。振り返りの前には、「めあて」を再確認し、「今日は、このことを考えたんだよ」ということを子どもにしっかりと意識させる。ワークシートに記入する時間を子どもたちと相談し（だいたい7～8分）、机間指導をしながら、意図的指名をする子を決めておく。交流の中で出る子どもたちの発言は、その思いをゆがめないように、キーワードで板書する。（今回は、「反省するときの大切な心は、『悪かったな。』と心にしみつけることだと思います。」と、自分の言葉で、本時の考えを書いていた子どもを指名）交流の時間は必ず確保し、考えが深められるようにしたい。【12分】